



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 代表理事 高橋 048-462-9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>
 一緒に自然に親しみ、ボランティア活動をしましょう 随時会員募集中

2018年12月、2019年1月、2月の主な予定表

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)
12月	15日 バスで巡る自然と歴史の関わり 千葉県関宿、さきたま古墳、利根大関	22日 (予定)	8日 富沢湧水調査・保全 9時 19日 大坂ふれあいの森 9時
2019 1月	樹林公園ヒロハアマナ保護区整備 (9日予定)	19日 (定期保全)	12日 富沢湧水調査・保全 9時 16日 大坂ふれあいの森協力 9時
2月	3月3日 NPO 法人自然観察指導員埼玉 総会 (担当は湧き水の会) 中央公民館 (和光樹林公園の視察会含む)	16日 (定期保全)	9日 富沢湧水調査・保全 9時 20日 大坂ふれあいの森 9時

1. 荻野豊先生をお迎えし環境セミナーを開催しました。2018年11月17日

環境セミナー

地域の宝を知り、活かし、伝え残していくために～考えよう和光のトラスト～

富沢湧水は2015年に特別緑地保全地区の指定を受け、残される方向です。隣接する「熊野神社」は白子宿の鎮守の森として大切にされています。その隣の「大坂ふれあいの森」は貴重植物が多いところで、現在は市民緑地の「ふれあいの森」として有効に活用されています。しかしここは「借り上げ地」のため、未永く残されるか否かが課題です。このように白子地域では、3つの緑地・湧水地が3つの方法で現在残されています。

一方では白子わんぱく広場下の富澤尚氏邸裏斜面林や柴崎邸、漆台など、湧水がありカタクリの群生する斜面林が、ここ2年ほどの間に次々と失われてしまいました。一度失われると2度と環境は戻りません。身近な貴重な自然を何とかして残したいと願っています。行政と市民が協力して都市部の身近な自然を、未来の子供たちに残す方策を考える目的でセミナーを開催しました。



基調講演：(公財) トトロのふるさと基金 専務理事 荻野豊氏

狭山丘陵に1984年から早稲田大学が進出し、その後残土処理、道路造成、墓地など無秩序開発が進みました。多様な環境で、植物や野鳥の生育地で、その開発を止めるのには、みんなの力で「買い取ること」でした。個人や企業からの募金を基金としてあつめ、行政や市民の協力を得て、永久に残すための土地の取得が必須であるとの主旨が述べられました。取得した土地を美しい自然として保全する実績が市民や土地所有者から認められました。土地所有者からの信頼が得られ、土地の寄贈なども増しました。「基金の運用と自然環境の保持に対する周囲からの信用こそが大切」との実績を踏まえた講演「トトロの森とトラスト制度」でした。現在活動中の当会や、セミナーの参加団体や行政に、次世代に残す道筋を照らすメッセージとなりました。報告書は別紙に作成しました。

2. 和光市内の井戸調査 2018年11月30日

2014年度に行った和光市湧水環境調査の一環で、現在も継続している井戸調査を行いました。毎年5地区の井戸を継続的に調査しています。白子地区、南地区、南地区西部、下新倉地区、新倉地区に分けて、井戸をお持ちのお宅で調査させていただいています。和光市内の古くからの農家で、広い敷地内に掘り抜き井戸があり、農業用、庭の散水、生活水など利用は様々です。井戸の深さや水面までの深さを測るメジャーがあり、メジャーの先端部が水に触れるとブザーが鳴るように出来ています。これを使って各井戸の水面の高さを測り、井戸水の水温、pH、電気伝導率を測定します。

市内の幹線道路や細い道を車で効率よくめぐり、各お宅の広い敷地に伺って測定させていただきます。お尋ねした時にはいろいろなお話が聞けることがあります。

2014年度実施の和光市湧水環境調査報告書から井戸の様子を紹介します。



3. 新倉ふれあいの森の間伐した竹の利用

新倉ふれあいの森では、11月28日に、朝霞市、志木市、川越市などの新河岸川流域の川を中心に活動している団体が集まり、新倉ふれあいの森で間伐した竹材活用が行われました。川の仲間たちが和光市のふれあいの森で活動するのは初めての試みです。

新倉の竹材活用に関しては、今までに、竹の間引きと自然環境への理解を深めるために「竹の子掘り」を開催し多くの方々に喜ばれています。市民祭りや緑化祭り、川まつりには、竹細工体験コーナーを設け、親子、子供たちに竹切り体験をしてもらっています。

今回は、竹の足踏みを作り、多くの方々に使ってもらい健康維持に役立ててもらおうという企画です。各地の川の応援団が和光市の新倉ふれあいの森に集まり、竹を切り、表面を滑らかにした竹に工夫を加え、健康竹ふみを作成しました。



4. 湧き水の会の活動紹介パンフづくり

今年度は皆さんもご承知のように、埼玉県NPO基金（金紋世界鷹 みどりと川の再生環境保全事業）を進めています。当会の活動紹介パンフづくりもこの一環です。

あらためて会の活動としては、～身近な自然を知り、守り、活かす活動～です。

和光市の湧水、緑地等の武蔵野台地末端部の特徴的な自然環境を調査し（知る活動）、その保全活動を進め（守る活動）、市民や子ども達と観察会を行い（活かす活動）、身近な自然に親しみながら、大切さを広く伝え残していきます。このほかにセミナーやフォーラムも開催しています。楽しく、継続した活動を進めていきましょう。